

企画展 式場隆三郎 脳室反射鏡

2020年8月8日(土)～9月27日(日)

式場隆三郎とは？

■越後に生まれた精神科医

1898(明治31)年、新潟県中蒲原郡五泉町(現・五泉市)生まれ。
1917(大正6)年～21(大正10)年、新潟医学専門学校(現・新潟大学医学部)に学ぶ。

■生涯の著作は約200冊

医業のかたわら、民藝運動、ゴッホ論、精神病理学、性教育などについて幅広く執筆。装幀を芹沢銈介、寿岳文章、東郷青児らに依頼するなど造本にもこだわりをみせた。

本展サブタイトル「脳室反射鏡」は、1939(昭和14)年に刊行された式場の随筆集の題名。

■民藝運動に参画

柳宗悦を師と仰ぎ、木喰仏の全国調査に協力。富本憲吉、河井寛次郎、バーナード・リーチらと親交。1939(昭和14)年竣工の式場邸《榴散楼》(現存)の設計には、宗悦や濱田庄司、河井が携わり、いわゆる「民藝建築」の代表作となった。

■「炎の人」ゴッホの生みの親

ファン・ゴッホを雑誌『白樺』で知り、我が国では初めて精神病理学的な研究を手掛ける。1932(昭和7)年には、大著『ファン・ゴッホの生涯と精神病』(聚楽舎)刊行。戦後には自ら収集したゴッホ複製画展覧会を全国で大成功させる。この展覧会が、多くの日本人にとって初めての「ゴッホ体験」となり、「炎の人」としてのゴッホ像を決定づけた。

■山下清をプロモート

式場は、雑誌や画集などで山下清作品を積極的に紹介。式場の働きかけで、山下は陶芸など貼絵以外の表現にも幅を広げた。戦後、式場が全国で企画・開催した山下作品の展覧会は、一大ブームのきっかけとなった。

■特異な住宅建築「二笑亭」を発見

「二笑亭」は、昭和初年、東京深川にあった個人住宅。迷路のような間取り、和洋が混合された浴室、木造の壁の節を利用した覗き穴など、奇妙な意匠満載の建物を現地調査。その成果を『二笑亭奇譚』(昭森社、1939年刊)にまとめた。本展では、この「二笑亭」の一部を再現する。

……などなど、逸話満載のカラフルな生涯を、本展では200点超の作品・資料でたどります。



①「自身の陶磁器コレクションを眺める式場隆三郎」、個人蔵

展示内容

■芸術と医学 ～式場隆三郎の青年期

式場は新潟市での医学生時代に白樺派に傾倒、武者小路実篤、柳宗悦、岸田劉生らの知遇を得る。同級の吉田璋也、橋本敬三らと同人誌『アダム』を創刊。新潟市内で泰西美術複製展覧会や、実篤、宗悦の講演会などを開き、実篤が提唱する共同体「新しき村」の新潟支部を名乗った。式場は、宗悦による木喰仏の全国調査に協力するなど、民藝運動にも同伴。さらにはゴッホの精神病理学的な研究に手を染める。当時の貴重な資料を通じ、若き日の式場を育んだ大正期の文化環境をみる。

②『アダム』第2年第1号、1920年（表紙画：岸田劉生）

③木喰《葬頭河婆》（柏崎市・十王堂、1924年頃撮影）



②



③

■芸術と宿命 ～美術と文学をめぐる仕事

式場が戦後に全国巡回させたゴッホ複製画などを紹介する。これらは、多くの日本人が初めてみたゴッホ作品であり、「炎の人」としてのゴッホ像を決定づけた。また、式場は東京深川の特異な住宅建築《二笑亭》を見出し、山下清のプロモーターを務め、初期の草間彌生を支援し、北条民雄・永井隆・三島由紀夫とも親交する。式場は著書『宿命の芸術』（1943年）の序文で、「宿命的な芸術家」に「健全な人生に対する憧れと、誠実な自己省察」の姿勢を見出す。そこには、人間性の中心と周縁を同じ平面上に見る視野があった。

④「ゴッホ《ラングロア橋（アルルの跳ね橋）》複製画」

式場隆三郎旧蔵

⑤二笑亭の式場（1939年頃）



④



⑤

■ 芸術と生活～民藝運動との関わりを中心に

式場は学生時代に柳宗悦を知り、生涯にわたって「私の芸術に関する恩師」と仰いだ。彼は民藝運動に初期から参画、芹沢銈介、バーナード・リーチ、富本憲吉らとも親交を結んでいる。式場邸（現存）の設計には、宗悦や濱田庄司、河井寛次郎が携わっており、いわゆる「民藝建築」の代表作となった。一方、彼は『人妻の教養』『結婚の饗宴』『独身者の性生活』といった著作でジャーナリズムの寵児となり、出版社やホテルの経営にも関わっている。広く雅俗をまたいだ式場の活動には、人間とその生活への深い愛着があった。



⑥

⑥河井寛次郎《三色打葉扁壺》1962年頃、

式場隆三郎旧蔵

⑦式場邸応接間（柳宗悦・濱田庄司ほか設計、1939年竣工）



⑦

----- 連続講座 「われらの式場隆三郎」

要約不可能な知的巨人、参照点を高密度につめこんだ展覧会。ここでは四つの補助線を錯綜させ、更なるカオスを招きます。

第1回「序論・式場隆三郎のはじまり」 8月9日（日）

講師：藤井素彦（本展企画者、新潟市新津美術館学芸員）

第2回「民間学への出立—式場隆三郎の眼差し」 8月16日（日）

講師：森仁史氏（日本工芸・デザイン史、山鬼文庫代表、元金沢美術工芸大学大学院教授）

第3回「式場隆三郎と障がい者アートをめぐって」 8月29日（土）

講師：前山裕司（新潟市美術館館長）

第4回「式場隆三郎と〈裏〉日本」 9月13日（日）

講師：藤井素彦（本展企画者、新潟市新津美術館学芸員）

各回とも.....

14:00～15:30（受付 13:30～）

会場：講堂 申込み不要、聴講無料、定員50名（先着順）

※新型コロナウイルス感染拡大防止策として、講座ご来場の際に、氏名・住所・電話番号の提供をお願いいたします。

.....

展覧会概要

展覧会名	式場隆 三郎 <small>しき ばりゆう さぶろう</small> 脳室反射鏡 <small>のうしつはんしゃきょう</small>
主催	新潟市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
協賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン
後援	日本民藝協会、新潟大学医学部学士会（有壬会）
特別協力	医療法人式場病院
助成	公益財団法人ポーラ美術振興財団、芸術文化振興基金
会場	新潟市美術館 企画展示室
会期	2020年8月8日(土)～9月27日(日) 44日間
開館時間	午前9時30分～午後6時（観覧券販売は閉館30分前まで）
休館日	月曜日（ただし8月10日、9月21日（振・月）は開館）、 8月11日(火)、9月23日(水)
観覧料	一般1,000円(800円)、大学生・高校生800円(600円)、中学生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体、リピーター割引料金 ※前売券の販売はありません
問合せ	新潟市美術館 上池仁子 〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9 Tel 025-223-1622 Fax 025-228-3051 URL http://www.ncam.jp museum@city.niigata.lg.jp

- ★本リリースに掲載の画像①～⑦は、本展覧会をご紹介いただける場合に限り、データ提供が可能です。
- ★記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ★原則、画像のトリミング、文字載せはできません。
- ★完成物は、1部ご恵与ください。

式場隆三郎 脳室反射鏡 展

チケットプレゼント・記事掲載申込書 (FAX 専用)

FAX 送信番号：025-228-3051 新潟市美術館宛

- ◆展示会場の取材、記事掲載時の作品写真（画像データ）及び、読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。
- ◆記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆チケットプレゼントの提供は1媒体につき10組20名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。
- ◆読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆掲載された媒体は、1部ご恵与ください。

○をおつけください	取材希望 ・ チケットプレゼント希望 ・ 記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス (データ送付先)	
ご媒体名	
取材予定日	取材予定 (月 日 時) ・ 取材予定なし
取材スタッフ	計 名 (内カメラクルー 名)
掲載・放映予定日	月 日
チケットプレゼント希望	組 枚 ※1媒体につき10組20名様まで
通信欄 ※画像を希望する場合は、該当する画像の番号を記してください。	